

第2回総会報告

コ・メディカル形態機能学研究会

2004-03-28

平成16年3月27日(土)第2回学術集会在滋賀医科大学で行われた。8月に国際解剖学会が京都で開催されるため解剖学会総会は春には開かれず、今回の学術集会は独立して行われた初めての集会であった。講演発表22題、出席者は70名を数え、予想以上に盛会であった。

学術集会に続き総会が行われた。総会の成立要件である会員の3割(153名中46名)を越える出席を得て総会は成立し、議題は特別の疑義も無く承認されてことを報告する。

日時:平成16年3月27日16:25~17:45

場所:滋賀医科大学看護学科第1講義室

世話人:野村 嶺

出席者:70名

議題:1.平成15年度事業報告ならびに会計報告

2.平成16年度事業計画ならびに予算案

(報告者 磯村源蔵)

<資料1>平成15年度事業報告ならびに会計報告

1. 役員会

第3回役員会

日時:平成16年3月27日(土)9:00~11:00

場所:滋賀医科大学看護学科懇話室

出席者:磯村源蔵、渡辺 皓、島田達生、今本喜久子、小林邦彦、後藤保正、絹谷政江、隅田 寛

議題:

1)第3回学術集会の日時、場所、世話人の選定

日時:平成17年3月28日(月)

場所:富山医科薬科大学(注。その後、富山医科薬科大学の都合により金

沢大学医学部保健学科で開催することに変更した)

世話人: 中谷壽男先生(金沢大学)、平野茂樹先生(新潟大学)

なお、解剖学会総会中にシンポジウム開催要請があれば考慮する。

2) UMIN 開設時の希望 URL を選定

希望 URL: <http://square.umin.ac.jp/co-medsf>

ホームページ担当者を小林邦彦編集長、コーディネーターに隅田 寛編集委員を選んだ。

3) 会費の滞納をなくすための方法

役員は特に注意していて、3年以上滞納は除名になることを会員に喚起させる。

4) 役員改選の方法

平成 17 年 3 月は最初の役員改選時期にあたり、その具体策を今年中に講じるところを申し合わせる。

2. 機関誌発行

「形態・機能」2 巻 1 号(9 月)および 2 号を(3 月)を予定通り発行した。

編集方針を下記のように一部改定し、極力著者製版を実行し、出版経費の節減に努めた。また投稿規程も以下の 2 点を改正した。

(1) 別刷代の有料化 (2) 投稿原稿送付先を編集長宛に変更

3. 第 2 回学術集会

今本喜久子先生ならびに野村 巖先生を世話人として、滋賀医科大学を会場として行われた。解剖学会からは独立した初めての学術集会であり、当初、参加者が少ないのではないかと心配されたが、22 題の演題が提出され初回よりは増加した。

4. 他組織との交流

本研究会の仮ホームページ

(<http://www.met.nagoya-u.ac.jp/ECM/ecm/str-func/index.html>) を立ち上げ、会員間のコミュニケーションを図ることに努めた。会員外の教育者・研究者にも本会の活動を知ってもらうのがねらいである。

5. 本会の運営方針

本会の運営の仕方を議論した。会費は年間 1 名 3,000 円、現在の会員数は 153 名、総額 459,000 円になる。本会は会費により運営されているが、平成 14 年度は機関誌「形態・機能」にほとんどの予算を注ぐ結果になった。健全経営を目指して出版経費の補助を 1 号当たり 15 万円以内に留めることを目途とし、出版・印刷

費の軽減のため当面著者製版の方法を導入した。

6. その他

現在の会員数は 153 名(3 月 12 日現在)である。

7. 会計報告

今本喜久子先生から以下のように報告され、2 名の監査委員、野村 巖および平野茂樹両先生の 監査を受け適正に処理されている旨の監査報告がなされた(別紙)。

<資料2>平成 16 年度事業計画ならびに予算案

1. 機関誌「形態・機能」3巻1号(平成 16 年 9 月)および2号(平成 17 年 3 月)を発行する。

2. 第 3 回学術集会について

日 時:平成 17 年 3 月 28 日(月)

場 所:富山医科薬科大学(その後、富山医科薬科大学の都合により金沢大学医学部保健学科で開催することに変更した)

世話人:中谷壽男先生(金沢大)および平野茂樹先生(新潟大)

3. 他組織との交流・情報交換推進

UMIN を使用した本研究会のホームページ立ち上げを予定している。これを通じて会員相互の連絡、他組織との交流を行う。

4. 人体解剖実習条件の改善運動に取り組む

コ・メディカル教育充実のため、人体解剖実習の実現を目指して積極的に関係官庁へ働きかけをすると同時に、他組織とも連絡を取り運動を強化する。

5. その他

(a)第 16 回国際解剖学会でコ・メディカル教育シンポジウムが企画実行される。

日 時:平成 16 年 8 月 27 日(金)10:00~12:00

場 所:京都国際会議場

テーマ:Significance of anatomy in the co-medical education

オーガナイザー:磯村源蔵(藤田保健衛生大学短期大学)

口演者と演題:

Dr. Anne Waugh(Napier university、U.K)

Dr. Kevin T. Patton(St.charles Community College、U.S.A)

今本喜久子(滋賀医科大学)

小林邦彦(名古屋大学)

磯村源蔵(藤田保健衛生大学短期大学)

登録手続きをした会員だけの入場であるが、多数の方の出席と討論参加を期待する(英語使用)。

(b) 第 16 回国際解剖学会中のコ・メディカル形態機能学研究会集会

日 時:平成 16 年 8 月 24 日(火)12:00~14:00(日本語使用)

場 所:京都国際会議場内の 1 室

テーマ:コ・メディカル解剖学実習の充実

司会進行:野村 嶺教授(京都大学)

平成 15 年 11 月 21 日に日本歯科大学で行われた公開シンポジウム「人体解剖実習をもとめるコ・メディカルの声にどう応えるか」(日本篤志献体協会、篤志解剖全国連合会主催)の席上、献体者から「我々はコ・メディカル教育であろうが何だろうが、それが医学教育につながるものであれば抵抗無く、そのための承諾書も書いている」・・・「(コ・メディカル教育に関して)他力本願的な発言が多く、具体的にどうしようという立案が少ないのがきにかかる」と発言された。現在は解剖学実習の必要性を議論する時期から、具体的な行動に取り掛かる時期と考えられるので、具体的な提案をお願いしたい。これはほとんどが解剖学会会員の責任でもあり、良い機会と考えられるので解剖学会会員の方は是非とも参加して討論に加わってほしい。

6. 平成 16 年度予算案

会計今本喜久子先生から以下のような予算案が提案された。

以上